

セリモドキ	<i>Dystaenia ibukiensis</i> (Y.Yabe) Kitag.	絶滅危惧Ⅱ類
		セリ科
選定理由	大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつあり、個体数が大幅に減少している。	<p>写真(清水英彦)</p> 
形態の特徴	多年草。茎は直立、上部は分枝して、高さ30-70cm。節に白毛がでる。葉は2-3回羽状複葉で、小葉は不規則に切れ込み、縁に毛が出る。花柄の内側には白色の微毛が密にはえる。萼歯は明らかで、花卉は白色。	
生態的特徴	山地の林縁や草地に見られる。花期は7-8月。	
分布状況	日本固有種で、本州(広島県以東)に分布する。岐阜県においては県南西部の伊吹山周辺に見られる。	
減少要因	本種の生育地は県内では石灰岩地という特殊な立地に生育する種でもあるため、もともと個体数も少ないが、生育地の周辺環境の悪化により減少している。	
保全対策	本種は樹林化がすすんで被圧されるようになると衰退していくため、草刈りや除伐など適度な人為的な管理を行い、日当たりのよい草地を維持する必要がある。	
特記事項	種小名のibukiensisは「伊吹山の」という意味である。なお別属のイブキゼリモドキ <i>Tilingia holopetala</i> (Maxim.) Kitag. は伊吹山には産しない。	
参考文献	「日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類」(佐竹義輔ほか(編), 1982年)	